

交流人口の拡大を

安部 誠也 議員



Q 2地域居住の推進を

2地域居住は都市と地方にふたつの拠点をもち、定期的に地方でのんびり過ごしたり、仕事をしたりする新しいライフスタイルで「実践する側」と「受け入れる側」双方にメリットがある。

町内には団塊世代の高齢化で空き家バンクへ登録する住宅は増えている。空き家となった一般住宅や農地を貸して、春から秋は飯南町で農業をしながら暮らしてもらい、冬は都市圏で暮らしてもらう方法や週末滞在もある。

地方への人の流れを生み出し、東京一極集中の是正、交流人口の拡大、地域経済の活性化に期待されるが、取り組む考えは。



クラインガルテン(志津見)

A 内容を十分に精査し検討

町長塚原隆昭

クラインガルテンの滞在型市民農園がまさに2地域居住であり、25棟が常に満室で入居待ちの状態。

令和7年度は関係人口に関する事業を拡大したいが、2地域居住は、内容を十分に精査し検討を進めたい。

Q 自衛隊訓練地誘致を

昨年8月に雲南地区防衛協力会が設立され、趣旨に賛同した会員約110人のうち飯南町民は50人であり、防衛に対する関心の高さを示した。

自衛隊出雲駐屯地は能力が拡大されたが、近傍に訓練場がなく、最も近い演習場でも鳥取県江府町の日光演習場や岡山県勝田郡の日本原演習場等で、片道2時間以上かけて移動し、訓練を行っている。県内の自治体が受け入れをしない限り、永遠に解消しない課題だ。

訓練場が誘致できれば、災害時における自衛隊員及び車両等の集結地にでき、ヘリポートとして避難・救助、物資供給等の防災拠点として機能を保有できる。町の防災計画も国の予算で整備でき、防衛交付金等により訓練場周辺地域のインフラ整備も期待できる。町が何もしないではダメだ。国防に貢献すべきだ。

A 情報の収集を進める

町長塚原隆昭

財政上のメリット、騒音や環境への影響などのデメリットを様々な観点から、時間をかけて検討していく必要がある。防衛省に訓練場の誘致の働きかけはまだ考えていない。

飯南町は90%が山林のため適地があるのか、分からない。

訓練場の建設についての要件、手続きについては、情報収集等しっかりと進めたい。



Q 財政説明会の開催を

「賃金の上昇や物価が高騰しているにも関わらず、町の予算は高騰した分上がついているわけではない。行政は財政状況が厳しいことを認識していると思うが、町民は今までと同じサービスを求める。今までのようには出来ないことも出てくるということを、町民に対して丁寧に説明していく必要があるのではないか」というご意見を町民の方から聞いた。

A 理解を得るよう努める

町長塚原隆昭

まずはケーブルテレビで、音声と図表等を使い説明したい。

また、まちづくり懇話会を利用して私に直接聞いてみたいという場合には、もちろん出かけていきたい。



Q 小中一貫型学校も検討を

飯南町教育環境基本計画の素案は、飯南町の未来を担う子どもたちの教育環境をより良くするための土台となるもの。教育の本身も充実させ、魅力的にするための環境だ。外側、つまり建物とその場所だけの話ではなく教育の本身も含めて考える必要がある。

考えられる選択肢をすべて挙げ、しっかりと研究・検討してから選ぶ必要があるため、「小中一貫型学校」という選択肢を素案の段階で提示すべきでは。

A 今後の長期的な課題

教育長 大谷 哲也

素案について丁寧な説明をして、しっかりと意見を伺う、対話をする、議論を深める、こういったスタンスで臨みたい。現時点では「小中一貫型



学校については今後の長期的な課題」と位置づけている。

しかし、将来的に少子化に歯止めがかからず、小学校の集約化という方向に進む可能性もあるため、小中一貫型の研究も進めておく必要がある。

県内で先進的に取り組んでいる学校の情報収集などを、今後進めていきたい。

小中一貫型学校とは主に以下の2種類がある。

義務教育学校…小学校と中学校を統合した新しい学校種で、9年間の一貫した教育課程を編成する。

小中一貫型小学校・中学校…小学校と中学校が連携し、教育課程や教職員の交流などを通して一貫した教育を行う。

未来を担う子どもたちのために

戸谷 ひとみ 議員

